

十和田を流鏑馬の聖地に

さくらやぶさめ

桜流鏑馬実行委員会



首相官邸で行われた表彰式後の記念撮影の様子

(写真左から) 一戸岳士さん (同実行委員会事務局)、菊池貴子さん (全国流鏑馬女子部選手代表)、高市早苗総務大臣、安倍晋三首相、上村鮎子さん (同実行委員会選手代表)、市職員 (随行)

第20回

ふるさとイベント大賞
大賞 (内閣総理大臣賞)
を受賞

MEMO

女流騎士だけが出場する全国的にも類がないイベントである桜流鏑馬を2004年にスタートさせ、毎年桜が満開になる4月下旬に開催し、現在に至るまで12回開催している。

「馬を活用したまちづくり」の起爆剤となるイベントであると評価され、県内では田舎館村の「田んぼアート」以来2回目の最高賞である大賞を受賞した。

満開の桜並木の下、伝統装束に身を包んだあでやかな女流騎士が和種馬に騎乗し、激しく揺れる馬上から弓を射る。その美しい光景が、見る者を魅了してやまない桜流鏑馬。

3月2日、地域の活力を生み出すイベントであると評価され、一般財団法人地域活性化センターが主催する第20回ふるさとイベント大賞の大賞(内閣総理大臣賞)を受賞しました。同実行委員会の活動をけん引している上村鮎子さんは、「ボランティアの皆さんの支えがあって、そのかたがたと一緒に頂いた賞です」と話します。

女性騎士から女性だけの流鏑馬をやってみたいと声が上がリ、実現した全国でも類を見ないイベント。始めた当初は、楽しさもあり、がむしゃらに頑張ってきましたが、今は継続していくこと、次の世代につなげていくことの責任を感じると話します。

次なる目標は、2020年に開催される東京オリンピックに、流鏑馬で参加し流鏑馬を全国そして世界に発信すること。

事務局として同実行委員会を支える一戸岳士さんは「桜流鏑馬は世界に売り出す価値のある十和田にしかないオンリーワンの観光資源。ビジネスになる可能性は十分です」とその先の展開を見据えます。



今回話を伺った上村さんと一戸さん、同実行委員会に協力している皆さん



競技(上級)の様子(約100mを12秒以内で駆け抜けなければなりません)

今年の桜流鏑馬は、4月23日(土)・24日(日)に市中央公園緑地で実施されます。

十和田を流鏑馬の聖地にすること、桜流鏑馬を十和田市の伝統文化として認知してもらうことを目指して、実行委員会の活動はこれからも続きます。